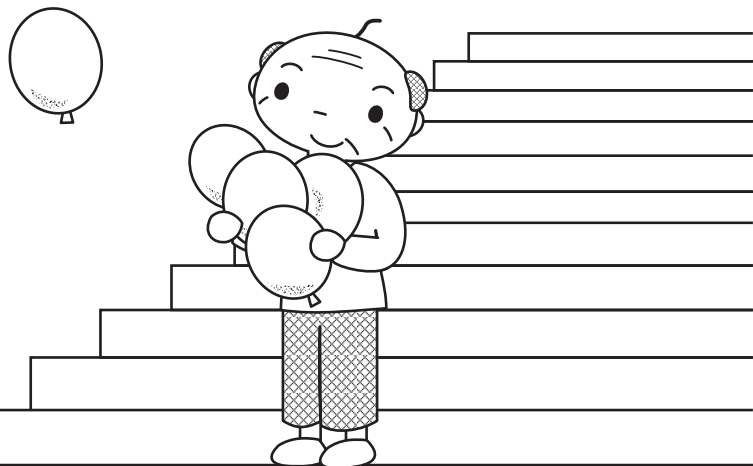


認知症を知る

① 症状



宣言
明るい笑顔
すぐ返事
伝える元気

かちどき薬品 ホームページ
げんき君 健康に関する情報がいっぱい
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ

認知症とは ● 認知症を正しく理解する

→詳しくは2~6ページに

誰にでも起こりうる脳の病気です

脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたために、生活に支障のある状態が続くことを認知症と呼んでいます。覚えられない、忘れてしまう、ここはどこで、今がいつで、目の前にいる身近な人が誰か、というようなことがわからなくなったり、判断力が衰えたり、計画を立てることができなくなるなど、それまでと同じような生活が困難になります。



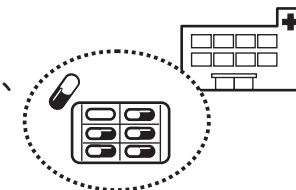
その原因は70以上もあると言われるほど様々ですが、代表的なのはアルツハイマー病、レビー小体病、脳血管性の病気です。

診断・治療 ● 早期受診・早期治療が大切

→詳しくは7ページに

できるだけ早めの受診が有効です

早いうちに治療すれば治せる場合もあり、アルツハイマー病の場合は薬で進行を遅らせることができます。



対応について ● みんなで穏やかに暮らすために

→次号に

かかわる人の心がまえが大切です

例えば家族や知り合いの誰かが認知症になった時、その状態をすぐに受け入れることができず、どう対応したらよいのか悩んだり、とまどいを覚えることでしょう。お互いに理解し合い、穏やかに暮らしていけるよう、まずは認知症について正しく知ることが大切です。



認知症を正しく理解する

《症状の進み方》

脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりすると

- ◎記憶障害
- ◎見当識障害
- ◎理解力・判断力の低下
- ◎実行機能の低下

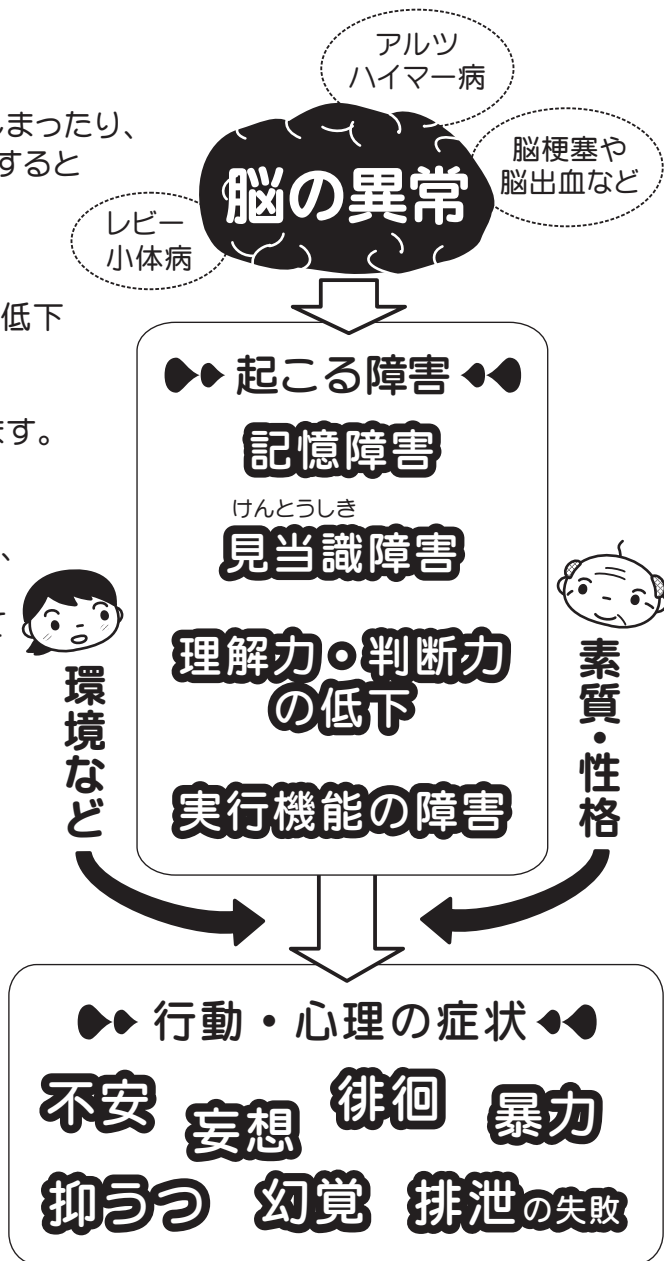
などの障害が現れます。

これらの障害に本人の素質・性格や、置かれている環境・人間関係が影響して

- ◎不安 ◎抑うつ
- ◎妄想 ◎幻覚
- ◎徘徊 ◎暴力

などの行動や心理・精神の症状が現れ、普通の生活を送ることが困難になってきます。

この他、原因によってさまざまな身体症状が現れることもあります。



脳の異常によって起こる障害

記憶障害

正常な老化に伴う「もの忘れ」とは異なります。

新しいことが記憶できなくなったり、さっき聞いたことが思い出せない。覚えていたはずの記憶も失われる。

食事したこと自体を忘れてしまいます。何を言っても思い出せず、「食べてない」と主張し続けます。

記憶のイメージ図



たくさんの情報の中から、必要な情報を捕らえて覚えらる。

多くの情報を捕らえられなくなる。覚えるのが困難になる。

新しい情報を捕らえて覚えることができない。覚えた記憶も失われる。

けんとうしき* 見当識障害

*見当識とは…「現在の年月や時刻、自分がどこにいるのかなど、基本的な状況を把握すること」を言います。

時間や季節感が薄れる。年月・日付がわからない。予定に合わせて準備ができなくなる。自分の年齢がわからない。

方向感覚が薄れる。

人間関係の記憶がなくなる。

近所で迷子になったり、自宅でトイレの場所がわからなくなったりします。歩いて行くには遠い距離を、歩いて出かけようとしています。

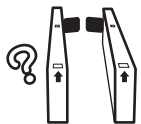
周囲の人との年齢関係がわからなくなったり、すでに亡くなった人をまだ生きていと言ったりします。

理解力・判断力の低下

考えるスピードが遅くなる。
一度に処理できる情報量が減る。
説明が長いと混乱してしまう。
予想外のことが起こると混乱してしまう。



目に見えないメカニズムが理解できない。



自動改札・ATM・IH調理器具などがうまく使えなくなります。

考えと現実が結びつかなくなる。

「節約は大切」と言いながら、高額なものを何個も買ってしまいます。

情報を正しく理解できない。
その場の状況が読めない。

会話中での「そんな馬鹿な!」というような言葉に対して、自分が「馬鹿」と言われたと思い込み、その場で激怒してしまいます。

実行機能の障害

計画を立てて物事を進められない。

家にある食材で献立を考え、足りないものを買ってくるができなくなります。

一つ一つの作業は上手にできても、同時に二つ以上のことをするのが困難。



ご飯を炊きながら同時におかずを作ることが難しくなります。

予想外の変化に応じた行動ができない。

◆◆ 行動・心理の症状 ◆◆

これらの症状は「その人の置かれた環境や人間関係」などが絡み合って起こるものです。多くの場合、適切な治療や介護によって、症状を軽くすることが可能です。

抑うつ (うつ状態)

できたはずのことができなくなり自信を失った結果、うつのような状態になる。

これまでできていた料理も、手順が悪くテキパキと作れなくなり、時間がかかります。苦勞して作っても「今までと味が違う」と言われ、自信を失います。

すべてが面倒で、以前は楽しめたことにも興味がわかなくなる。

家の中を片付けるつもりが、うまく整理整頓できず、收拾がつかなくなります。いつも散らかった状態のため、意欲や気力が減退したように見えてしまい、「うつ病」と間違えられたりします。

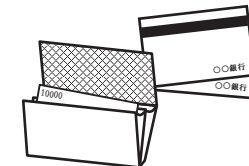
自ら認知症を疑って、将来に望みを無くし、うつ状態になることもあります。



認知症の初期に現れやすい。

妄想

大事なものをしまい忘れて、違う場所にしまったことを忘れて、なくなったと思い込む。



なくなった = 盗られた
と思い込む。

自立心の強い人に起こりやすい妄想です。「忘れた」ことが受け入れられず、自分が忘れるはずなどない!と思っています。

徘徊

時間や場所がわからなくなる。
例えば夜に家を出て行ってしまい、
道に迷って行方不明になる。



自分と周囲のことが正しく把握できなくなり、
ちぐはぐな行動をとることがあります。
道に迷ってしまった結果「徘徊」と呼ばれる
ことが多いですが、原因によっては対応策を
工夫することで未然に防げます。

排泄の失敗

トイレの場所がわからなくなり、
間に合わなくて失敗する。

脱ぐのに手間取ってしまい、
衣類を汚してしまう。

尿意・便意を感じにくくなる
ため、タイミングを逃す。



排泄だけでは
なく、基本的な
生活動作全般
が困難になり、
援助が必要と
なります。

排泄の失敗については、
前立腺肥大や膀胱炎など
身体の病気が原因の場合
もあります。

暴力

性格が変わったように
怒りっぽくなって大声を出したり、
ささいなことで手をあげたりする。



早期受診・早期治療が大切

認知症の原因は様々で、アルツハイマー病の場合は早めに
薬を使用すると進行を遅らせることができるほか、原因に
よっては外科手術によって改善されることもあります。
病気が理解できる軽症のうちに診断を受ければ、障害が
進んだ時のための準備や手配をしておくことが可能です。

認知症の経過は個人差がありますが、自分らしい生き方を
できるだけ長い間続けられるよう、医師や周囲の人との
信頼関係を築いておくといよいでしょう。

◆◆ 《参考》 認知症の進行と、現れる症状 ◆◆

軽度

- ものを忘れを繰り返す
- 疲れやすい、無気力、抑うつ、不眠
- 料理がうまくできない、献立が同じ
- 同じものを何回も買う、消費者被害にあう
- パニックになりやすい、幻覚
- 感情のコントロールができない
- 大切なもののしまい忘れ、妄想
- 暴言、言葉が出にくくなる
- 時間がわからなくなる、昼夜逆転
- 迷子になる、徘徊
- 字が書けない、買いものができない
- 着衣の乱れ、入浴拒否、排泄の失敗
- 暴力、大声を出す

重度

- 歩行困難、転倒、骨折
- 寝たきり、誤嚥性肺炎
ごえんせいはいえん



専門医に相談
しましょう

「日本認知症学会」のホームページ
などで調べることができます。

認知症の診断には高度な検査機器と、技術を
要する検査が必要です。認知症専門医のいる
◎老年病科 ◎神経内科 ◎もの忘れ外来
などを受診し、医師によく相談しましょう。